Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-29

基礎看護実習におけるリフレクティブジャーナル上での教師と学生の対話の意義

中田, 康夫 ; 田村, 由美 ; 澁谷, 幸 ; 山本, 直美 ; 森下, 晶代 ; 石川, 雄一 ; 津田, 紀子

(Citation)
神戸大学医学部保健学科紀要,20:77-83

(Issue Date)
2005-03-25

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/00406759

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/00406759

基礎看護実習におけるリフレクティブジャーナル上での教師と学生の対話の意義

中田　康夫[1]，田村　由美[1]，澁谷　　幸[1]，山本　直美[2]
森下　晶代[2]，石川　雄一[1]，津田　紀子[1]

要　　約

本研究は、実践的思考能力育成のために基礎看護実習Ⅱの実習日誌として学生に課した2002年度および2001年度のリフレクティブジャーナル（以下、RJ）の内容を分析・検討し、RJにおけるリフレクションに必須なスキル（以下、リフレクティブなスキル）の活用状況を明らかにするとともに、リフレクティブなスキルの修得促進のためのRJ上での教師と学生の対話の意義について検討することを目的とした。両年度の相違は、2002年度の基礎看護実習ⅡのRJは、教師と学生が紙面上で対話ができるように実習日数分のＡ４用紙を綴じた冊子型の形態であったが、2001年度のそれは実習日数分のＡ４用紙を綴じずに１枚ずつばらばらの形態であった。また、2002年度の学生は基礎看護実習Ⅰに先行して開講している演習においても演習日誌としてRJを経験しているが、2001年度の学生はそれを経験していない。2002年度の実習期間中に毎日提出された64名のRJにおいて、リフレクションの必須スキルが活用されているかどうかについて、各々の定義をもとに詳細に分析・検討を行い、2001年度の58名のそれと比較した。その結果、「自己への気付き」および「分析」の２つのスキルについては、RJ上での教師と学生の対話により学生のスキルの活用が促進されていた。また、「自己への気付き」「記述・描写」「分析」の各スキルの活用が、４日間のRJのうち少なくとも１日分のRJにおいてみられた学生の割合は、前年度に比べてすべてのスキルで増加していた。以上のことから、RJ上で教師と学生が対話することによって、学生のリフレクティブなスキルの活用・修得をより促進できることが示唆された。したがって、実践的思考能力育成のためにもRJ上で教師と学生の対話を行うことは意義があると考えられた。

索引用語：リフレクション、リフレクティブなスキル、リフレクティブジャーナル、対話、実践的思考能力、看護基礎教育

緒　　言

本学基礎看護学講座では、「その人とその人を取り巻く状況を的確に判断し、状況に応じた看護を実践できる能力」[1]である実践的思考能力の向上のために、実践的思考能力に必要不可欠であると考えられているリフレクションに必須な５つのスキル（以下、リフレクティブなスキル）の修得に向けた取り組みを行っている。

リフレクションの５つの必須スキルとして、「自己への気付き」「記述・描写」「分析」「統合」「評価」が明らかにされており[2]、その修得

１．神戸大学医学部保健学科
２．神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程

過程は「自己への気付き」を土台として、他の４つのスキルが順に積み上げられるようにして修得されること、換言すれば「統合」や「評価」は前記３つのスキルの修得がなければ修得が困難なスキルであることが示唆されている[2,3]。これをもとに、2001年度からそれぞれの実習目標そのものと照らし合わせて、看護基礎教育の初期段階に位置づけられている基礎看護実習Ⅰ（以下、基礎実習Ⅰ）では「自己への気付き」「記述・描写」のスキルを、基礎看護実習Ⅱ（以下、基礎実習Ⅱ）では「記述・描写」「分析」のスキルを修得することを目標に、実習日誌としてリフレクティブジャーナル（以下、RJ）[3]を導入し、その効果について確認した[4]。また、リフレクティブなスキルの修得には、より早期からリフレクションの訓練を開始することが望ましいと考え、2002年度からは基礎実習Ⅰに先行して開講している演習に演習日誌としてRJを導入し、その意義を確認した[5]。

リフレクションならびにリフレクティブなスキルに関しては、欧米を中心に十数年前から研究が進められており、RJに関する文献[6-13]も数多くみられる。そして、RJによる学生のリフレクティブなスキルの修得を促進するためには、教師と学生との「対話（dialogue）」[3]が重要であるといわれている。しかし、わが国では看護におけるリフレクションに関する研究は緒についたばかりであり、RJ上での教師と学生との対話に関する研究はみられない。

本研究は、基礎実習Ⅱの実習日誌として学生に課したRJにおいて、RJ上で教師と学生の対話ができるように工夫した2002年度のRJとそうではない2001年度のRJの内容を分析・検討し、RJにおけるリフレクションに必須なスキル（以下、リフレクティブなスキル）のうち、「自己への気付き」「記述・描写」「分析」の３つのスキルの活用状況を明らかにするとともに、リフレクティブなスキルの修得促進のためのRJ上での教師と学生の対話の意義について検討することを目的とした。

対象と方法

１．対　象

対象は、2002年度に基礎実習Ⅱを履修し、RJを提出した本学２年生66名のうち、RJを本研究の材料として使用することに同意した64名（97.0%）。

なお、倫理的配慮として、口頭および紙面により本研究の目的や、承諾の可否は成績評価と一切関係ないことなどを説明し、書面をもって承諾の意思を確認した。

２．方　法

１）RJの形態

2002年度の基礎実習ⅡのRJは、教師と学生が紙面上で対話ができるように実習日数分のＡ４用紙を綴じた冊子型の形態とし、左側の頁に学生の記述、右側の頁にそれに対する教師のコメントならびに学生の返答の記述ができるようにした。なお、2001年度のそれは、実習日数分のＡ４用紙を綴じずに１枚ずつばらばらの形態であった。

２）RJの記述方法に対する教示

実習開始にあたって、学生にリフレクションの背景、定義、目的など[1,3]に関する説明を行った。その上、RJにはその日最も印象に残ったことを、

①なぜその場面・状況を選択したのか？
②その場面・状況は何をしようとして起こったのか？
③そのときの感情はどのようなものであったか？
④そのときの判断や自分のとった言動はどうであったか？
⑤その場面・状況に必要な知識や技術はどのようなことか？

の５項目にそって記述するように説明した。RJは実習期間中（帰校日１日を除く４日間）毎日、その日のうちに記録し、翌朝提出することを求めた。

3）RJ上での教師と学生の対話

提出されたRJの記述内容に対しては、学生の各スキルの活用と修得を促進するために、実習担当教師が当日のうちにコメント、すなわちひと言で「なるほど」と思わせるような、ズバリと本質をつく具体的な質問[14]を入れ返却した。そして、学生には教師のコメントに対して、当該コメントの下の余白の部分にそれに対する返答を必ず記述するように指導した。つまり、学生はRJが返却された翌朝、前日のRJの記述と併せて前々日のRJに対する教師のコメントへの返答の記述を行ったうえでRJを提出した。このような教師と学生との対話の方法は、答えを提示するのではなく思考するための質問を投げ掛けるというソクラテスの対話[15]に基づく方法である。

4）分析方法

最初に、研究者全員で以下に示す各スキルの操作的定義を確認した。

「自己への気付き」のスキルとは、自分自身の性格、信念、価値（観）、特性（本質）、強みや弱み（自分の能力の限界）を意識すること、つまり自分自身について知るためのスキルである[2, 3, 16]。

「記述・描写」のスキルとは、経験した実践での最も顕著で重要な事柄や出来事を正確に再現し、その状況の正確な全体像を提供するための、かつその出来事の全貌を認識するためのスキルである。良い記述はその状況がはっきりと正確に、かつ全体がわかるように記述されている[2, 3, 16]。

「分析」のスキルとは、その状況の内容を検討し、そこで必要な知識を明確にし、問題に挑戦し、他の選択方法を創造するためのスキルである。知識のクリティカルな分析にはその知識がどのようにその特定した状況に関連しているかを検討することが含まれるが、分析は構造あるいは構成部分や要素を詳細に検討することでその本質をよりよく理解したり、各部分がそれぞれどのように関係して影響しあっているかをよく理解するために行う[2, 3, 16]。

次に、各スキルがRJ上にどのように記述されていることが当該スキルの活用にあたるのかを、これまでの研究[17, 18]で用いたRJに記述されていたものを具体例として提示し、共通理解した。具体的には以下のとおりである。

「自己への気付き」のスキルについては、たとえば「私は『演習で習った技術を実際の患者様にしてみたい』という自分の思いばかりが強くて、自己満足のためのケアのことばかり考えていたように思います」「私は自分の質問に対する患者様の反応に対して怖がっていたため、そのとき声かけができませんでした」という記述がみられれば、このスキルが活用できていると判断することにした。

「記述・描写」のスキルについては、たとえば「今日はTさんの手浴、足浴を行わせてもらったのですが、手浴を行おうとして、Tさんの手を手浴用のボウルの中に入れると、すぐに手をそのボウルの中から抜こうとされました。私は、この実習にきて、Tさんの笑顔を何度か見かけたのですが、今朝、病室に行った時、Tさんに『今日は、手浴、足浴をさせていただきたいんですけどよろしいですか？すごいすっきりすると思うので、楽しみにしてて下さいね』という様な事を伝えると、私に笑顔を向けてくれました。清潔をするという行為は誰にとっても心地良いものなはずで、だからTさんがどうして嫌がったのか、その時は何も考えず嫌がっているから手浴はやめておいたほうがいいのではないかという、あまりに単純な結論をすぐに出してしまい、看護師さんに『これは嫌がっておられるんですか？それならば手浴をやめておいたほうがいいのですか？』と尋ねると、看護師さんは『いや、続けてくれていいよ』っておっしゃり、Tさんの手がボウルに入るように促してくれて、私は手浴を無事終了することができました」というように、RJに取り上げた場面が正確に再現されている記述がみられれば、このスキルが活用できていると判断することにした。

「分析」のスキルについては、「痛みについ

て観察することは分かっていたけれど、どんなことを観察すればよいか分かっていませんでした」「放射線療法を行っている患者様の皮膚はとても弱っていて乾燥しやすいという知識をもっていなかったということです。このことを知っていれば保湿性のある入浴剤を用いるといったことも考えることができたし、皮膚の観察も適切にできたと思います」という記述がみられれば、このスキルが活用できていると判断することにした。

そして、4日間のRJにおいて各スキルの活用があったかどうか研究者全員で検討し、合意を得た。そしてそれを、2001年度の学生の各スキルの活用状況[17, 18]と比較した。

なお、本分析では、4日間のRJのうち1回でも各々のスキルを活用してRJを記述していれば、当該スキルを活用していると判断した。

結　　果

両年度のスキルの活用状況は、表のとおりである。

「自己への気付き」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生の割合は、2001年度27.6%から2002年度76.6%へと約2.8倍に増加していた。「記述・描写」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生の割合は、2001年度69.0%から2002年度100%に増加していた。「分析」のスキルの活用がRJ上でなされていると判断できた学生の割合は、2001年度48.3%から2002年度89.1%に増加していた。

また、RJ上での教師と学生の対話の結果として、2002年度のRJには、教師のコメント後に「自己への気付き」を活用してコメントに対する返答を記述していた学生が5名、「分析」のスキルを活用してコメントに対する返答を記述していた学生が3名認められた。

考　　察

両年度におけるスキルの活用状況において最も異なる点は、2002年度は2001年度にはまったくみられなかった教師のコメント後に「自己への気付き」や「分析」のスキルを活用してコメントに対する返答を記述していた学生が、その人数はいずれもわずかであったが認められたことである。両年度でリフレクションに関する教育・指導内容にほとんど変更がないにもかかわらずこのような結果が認められたのは、RJ上での教師と学生の対話ができるように、RJの形態を見開きで活用できるように冊子型に変更したことによるものだと考えられる。このことから、RJ上で教師と学生が対話することは、学生のスキルの活用・修得を促進するために意義があると考えられる。

RJの形態に関して、2001年度のA4用紙を実習日数分綴じずに1枚ずつばらばらにした形態の場合、学生は用紙のほぼ一杯に記述を行ってくるので、教師がコメントを記述できる余白はわずかしかなく、そのコメントに対して学生が返答の記述を行える部分はほとんど残らない。この際、当該用紙の記述のない裏面を活用するという方法も考えられるが、学生が教師のコメントに対して返答するためには自分自身の記述も何度も読み返して熟考することが必要と

表　リフレクティブなスキルの活用状況

スキル	2002年度（n＝64）	2001年度（n＝58）
「自己への気付き」	49(5*)名（76.6%）	16名（27.6%）
「記述・描写」	64名(100.0%)	40名（69.0%）
「分析」	57(3*)名（89.1%）	28名（48.3%）

*教師のコメント後に当該スキルの活用に至った人数（内数）

なり、そのためには用紙を何度もひっくり返しながら読まなければならなくなるが、この方法は効率が悪い上に、思考の妨げになると考えられる。したがって、RJ上で教師と学生の対話を行うためには、今回のような冊子型のRJの形態が適切であると考えられる。RJの形態については、左側の頁には日誌を書き、右側の頁にはリフレクションや分析や覚え書きを書き込むという、それぞれの頁を分割して用いる方法が示されている[19]。これは、今回採り入れたRJの活用方法とは同一ではないが、このことからも、RJの形態を冊子型にすることは、紙面でリフレクションを行うためには効果的であると考えられる。

一方、今回取り上げた3つのスキルのすべてにおいて、当該スキルを活用していた学生の割合は、2002年度は2001年度に比べ増加していた。2002年度は基礎看護実習Ⅰに先行する科目である演習にRJを導入した。これによって、2002年度の学生は2001年度の学生に比べリフレクションの経験が増し、リフレクションに対する認識が深まり、RJの記述方法に対する慣熟が一因となって、今回の結果に繋がったと考えられる。このことは、RJの早期導入の意義を確認した前回の研究結果[5]を支持するものである。したがって、今回の結果からもRJを看護基礎教育のできるだけ早期から導入することは、学生の実践的思考能力を向上するために意義があると考えられる。

以上のように、今回、RJ上での教師と学生の対話の意義が新たに確認できたうえ、看護基礎教育におけるRJの早期導入の意義についても再確認できた。しかしながら、今回、学生の各スキルの活用と修得を促進するために、すべての学生の日々のRJに対して教師はコメントを入れ、RJ上での教師と学生の対話を図ったにもかかわらず、教師の各コメントに対してスキルを活用せずに返答していた学生も認められ、そのため「自己への気付き」および「分析」のスキルを活用した学生の割合は100%には至らなかった。このことから、RJ上での対話を促すための教師のコメント力にも課題があることが示唆されるが、本研究ではこの点においては詳細な分析ができていない。したがって、今後、教師のどのようなコメントが学生の各スキルの活用と修得を促進するに至ったかを詳細に分析するとともに、教師のコメント力を向上する方略を検討していくことが重要である。

結　　語

RJ上で教師と学生の対話を行うことにより、リフレクティブなスキルの活用状況に変化が認められるかどうか明らかにするとともに、リフレクティブなスキルの修得促進のためのRJ上での教師と学生の対話の意義について検討した。

1．教師のコメントに対して、リフレクティブなスキルを活用してコメントに対する返答を行っていた学生が認められた。
2．前年度と比べ「自己への気付き」「記述・描写」「分析」の各スキルとも、それらを活用できていた学生の割合は増加した。
3．RJ上で教師と学生の対話を行うことは、学生のリフレクティブなスキルの活用を促進し、その修得を促進する可能性が示唆されたことから、意義があると考えられた。

本研究の一部は、日本看護科学学会第23回学術集会において発表した。

文　　献

1．田村由美、藤原由佳、中田康夫、他．オックスフォード・ブルックス大学におけるリフレクションを活用した看護教育カリキュラムの背景と概要．Quality Nursing 8(4)：41-47, 2002.
2．Atkins S and Murphy K. Reflection：a review of the literature. Journal of Advanced Nursing18：1188-1192, 1993.

3．Burns S and Bulman C. Reflective practice in nursing: The growth of the professional practitioner. 2nd ed., London, Blackwell Science. 2000.
4．中田康夫、田村由美、藤原由佳、他．基礎看護学実習Ⅰにおけるリフレクティブジャーナル導入の効果：リフレクティブなスキルの活用の有無による検討．神戸大学医学部保健学科紀要 18：131-136, 2002.
5．中田康夫、田村由美、澁谷幸、他．リフレクティブジャーナルの早期導入の意義：リフレクティブなスキルの活用状況の比較による検討．神戸大学医学部保健学科紀要 19：27-32, 2002.
6．Riley-Doucent C and Wilson S. A three-step method of self-reflection using reflective journal writing. Journal of Advanced Nursing 25：964-968, 1997.
7．Callister LC. The use of student journals in nursing education: Making meaning out of clinical experience. Journal of Nursing Education 32(4)：185-186, 1993.
8．Cameron BL and Mitchell AM. Reflective peer journals: Developing authentic nurses. Journal of Advanced Nursing 18：290-297, 1993.
9．Reed J and Procter S. Nurse Education: A reflective approach. London, Edward Arnold. 1993.
10. McAlpine L. Learning to reflect: Using journals as professional conversations. Adult Learning 3(4)：23-24, 1992.
11. Osterman K. Reflective practice: A new agenda for action. Education and Urban Society 22(2)：133-152, 1990.
12. Wellard SJ and Bethune E. Reflectivejournal writing in nurse education: whose interests does it serve? Journal of Advanced Nursing 24：1077-1082, 1996.
13. Wong FKY, Kember D, Chung LYF, et al. Assessing the level of student reflection from reflective journals. Journal of Advanced Nursing 22：48-57, 1995.
14. 齋藤孝．コメント力．東京、筑摩書房．2004.
15. Marks-Maran D and Rose P. Thinking and caring: New perspectives on reflection. In Marks-Maran D and Rose P. Reconstructing Nursing: Beyond Art and Science. London, Bailliere Tindall. pp110-141, 1997.
16. 田村由美、中田康夫、藤原由佳、他．リフレクションを行うために必須なスキル開発．Quality Nursing 8(5)：51-57, 2002.
17. 中田康夫，田村由美，森下晶代，他：実践的思考能力向上のためのリフレクティブなスキルの修得過程：前向き研究．第22回日本看護科学学会学術集会講演集 430, 2002.
18. 田村由美，中田康夫，森下晶代，他：実践的思考能力向上のためのリフレクティブなスキルの修得過程：後向き研究．第22回日本看護科学学会学術集会講演集 431, 2002.
19. Johns C. Guided reflection. In Palmer A, Burns S and Bulman C. Reflective practice in nursing: The growth of the professional practitioner. 1st ed., London, Blackwell Science. pp110-130, 1994.

The Significance of Dialogue Between Teacher and Student on Reflective Journal in Basic Nursing Clinical Placement

Yasuo Nakata[1], Yumi Tamura[1], Miyuki Shibutani[1], Naomi Yamamoto[2], Akiyo Morishita[2], Yuichi Isikawa[1] and Noriko Tsuda[1]

ABSTRACT : The purpose of this study was to explore the significance of dialogue between teacher and student on reflective journal of clinical placement. Dialogue between teacher and student on reflective journal is important for student to learning reflective skills. In 2002 a reflective journal was changed from a single sheet type to a booklet type in order to facilitate dialogue between teacher and student, and was introduced into a nursing skills laboratory before basic nursing clinical placement commenced. We obtained the reflective journals of 64 students in 2002 and of 58 students in 2001, who submitted them every day during a four day clinical placement period. Analysis on the reflective journals was performed for the use of the following three necessary reflective skills : "self awareness", "description", and "analysis". The findings showed that some students used the skill "self awareness" or "analysis" after dialogue between teacher and student on reflective journal in 2002 and all of the three skills used by the students increased in 2002 as compared to 2001. From these results it was concluded that dialogue between teacher and student on reflective journal is associated with learning of practical use of the skill "self awareness", "description", and "analysis". In conclusion, dialogue between teacher and student on reflective journal may be meaningful for the acquirement of reflective skills, which is thought of as indispensable to clinical thinking abilities.

Key Words : Reflection, Reflective skills, Reflective journal, Dialogue, Clinical thinking abilities, Basic nursing education

1 . Faculty of Health Sciences, Kobe University School of Medicine
2 . Doctoral Course, Division of Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kobe University